令和2年度　学校自己評価システムシート　（ 県立和光南特別支援学校 ）　　(w46)

目指す学校像	児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育を推進し、「生きる力」を育成する学校
重点目標	1 充実した授業づくり 2 開かれた学校づくり 3 健康で安全な学校づくり 4 進路指導の充実

達成度		
	A	ほぼ達成　（8割以上）
	B	概ね達成　（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分　（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9 名
	生　徒	3 名
	事務局(教職員)	5 名

学校自己評価

番号	現状と課題	年度目標：評価項目	年度目標：具体的方策	年度目標：方策の評価指標	年度評価（2月3日）：評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・多様な教育課程の編成に向けて、12 年間の系統性を重視した教育目標の見直しに取り組んだ。新学習指導要領の理解促進を進めるよう指摘もあり、今後も、主体的で対話的で深い学びの視点を取り入れた授業展開を進める。 ・児童生徒個々の障害特性に応じた適切な指導が図られるよう、研修等を通じて、資質向上に取り組んでいる。今後も、外部講師による研修や、校外における研修に取り組む。	①新学習指導要領の下、支援や指導の共通理解や児童生徒の障害特性の実態把握を進め、学校研究、「主体的・対話的で深い学びの視点で考える」を取り入れた授業実践を行う。	①【管理職、研究部等】 新学指導要領の下、適切な支援計画（和光南スタンダード等）による授業実践と児童生徒の実態把握により教科・作業・発表学習等を進める。授業（行事）のねらいを明確にして、校内研究を計画的に行い、成果を確認する。	①「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業の中でPDCAサイクルを実践し、指導のねらいや評価が適切に行われたか。	①感染防止対策により、運動会・文化祭・修学旅行等は、中止や実施内容を変更等して実施した。授業は、研究授業（24件）を中心に適宜指導のねらいや内容を見直しながら取り組んだ。	B	・研究部を中心として課題を検証し、各学部学年の指導内容や指導方法、評価等をＰＤＣＡサイクル手法で指導の見直しや改善を継続する。
		②校内外における新学習指導要領に関する研修に取り組む。	②【教育課程部等】 研修会を実施し、新学習指導要領の理解を深め、全教職員で組織的かつ計画的に教育活動の質向上を図る。	②新学習指導要領に関する理解を深める研修会が実施できたか。また、教科や行事等の教育課程の整備につなげることができたか。	②感染防止対策により、全体研究会は実施できなかったが、学部や分掌等で、教育課程の整備を行い、今年度は校内での検証を行った。	B	・教育課程部を中心に教育課程の整備を継続して行い、研修会の実施方法や内容等を検討する。今後も新学習指導要領の理解を深める取組を行う。
2	・本校教育活動への理解は進んでいるが、一層の理解を得るため、地域や外部関係機関への広報や連携を進める。今後も外部機関との連携を深め、「切れ目のない支援・多様な教育の場」を実現する。 ・学年や学部にとどまらず、ケース会議等を通じて、学校全体で児童生徒個々の情報共有を図り、きめ細やかに、児童生徒の実態を把握する取り組みを続ける。	①外部機関や外部講師と連携し、ボランティア研修や専門研修を実施する。また、学校HPや学校だより等を活用して、本校の教育活動を広報し、理解促進を図る。	①【管理職、地域校内支援部、就学相談部、教務部、情報部等】 学区市教育委員会、小中特別支援学級や通級高校等との連携を密にする。外部人材（ボランティア）や体験活動の受け入れ等を通して、本校の教育活動を積極的に広報する。HP等を活用して学校案内・教育活動を計画的に情報発信する。	①外部への説明会や体験活動の受け入れを通して、本校の教育活動の理解度等のアンケート等は実施できたか。 ②HP等を活用して、教育活動等の情報発信ができたか。	①校外巡回相談は、117件（1月8日現在）、研修会は3件（12月末現在）やボランティアの外部人材の活用を9名（延41回）行うことができた。支援籍学習は、間接交流で（小13人、中8人）実施できた。 ②HPに、児童・生徒が自宅で閲覧できる「まなびのへや」を新設し、動画等を定期的に配信して教育活動の情報提供ができた。	A	・臨時休業により、年度当初の学校説明会等は行うことができなかった。学校再開後計画を一部変更しながら実施できた。次年度は、社会の状況を見極めつつ、変化に対応しながら、取組を進める。
		②障害特性から行動に課題のある児童生徒や長期欠席児童・生徒等の、把握・報告・対応を組織的に実施する。	②【生徒指導部・地域校内支援部等】 障害特性から行動に課題のある児童生徒等や長期欠席児童生徒に対して、校内連携と地域連携を含めた支援について、適宜ケース会議等行う。	②特に課題のある児童生徒に対して、ケース会議等は適宜に実施され、対応できたか。	②課題のある児童・生徒に対するケース会議は、20件（1月末現在）実施（昨年度18件）。外部関係機関と担任やコーディネーターと連携して適宜に行うことができた。	A	・次年度も、ケース会議等の実施は、校内関係者や外部関係機関と常に連携し、随時、適宜に行う。また、関係市との連携をより一層図る。
3	・健康被害や事故防止はもとより、細やかな配慮も怠らず、安心安全な学校生活が送ることができるよう、安全意識の徹底を図る。 ・教職員自身が働き方改革を実践し、負担軽減が図れたことを実感することが大切である。県の取り組みも含め、校内における負担軽減策の実践を進め、業務の効率化を図る。	①安心安全な学校生活のため、事故を未然に防止する安全意識の徹底やヒヤリハットを共有する。緊急時に家庭や地域との連絡を確実に行う情報通信機能の整備を図る。災害時における安全確保のための訓練等を実施する。	①【管理職、企画委、教務部、保健部、スクールバス部、生徒指導部、情報部、防災部、渉外部等】 ・全教職員でヒヤリハット案件を共有し、学校全体で組織的に事故の未然防止策や解決策を共有する。 ・刻々と変化する国や県の状況に組織的に対応して情報通信機器の一斉メールやHP等で家庭や地域との連絡を確実に行う。	①ヒヤリハット案件について、組織的に事故の未然防止策や解決策は実施できたか。 緊急事態等の対応に一斉メールやHP等で家庭との連絡を確実に行えたか。（メール登録率は、100％に近づけたか）	①「ヒヤリ・ハット」の情報共有は、校内サイトを活用し緊急性の高い事案は、朝会で確認できた。一斉メール登録率は、家庭登録94％、教職員登録97％と上昇した。メールとHPを連動して外部に発信できた。 ・今年度給食時異物混入件数は0であり、衛生管理意識を高めることができた。	B	・全教職員の情報共有時間の確保は、校内ＬＡＮと連動して行うことは大変重要である。また、安心安全な学校生活を目指す取組には必要不可欠であり、今後も一層全校で連携する。 ・今後は、全家庭のメール登録が100%になるよう継続的に啓発を行う必要がある。
		②教職員の働き方改革の意識は向上しているが、さらに職場環境の改善を行い、事務効率化を進めて教職員自身の健康の保持増進を図る。	②【管理職、倫理確立委、学校安全衛生委等】 長時間勤務・残業等を把握して、働き方の改善を促すなどの見直しを行う。教職員自身の健康増進のための意識改革を進め、仕事の効率化を工夫する。	②長時間勤務・残業が減り（仕事の効率化）、教職員自身の健康は改善できたか。 教職員自身で、勤務管理システムを活用しセルフコントロールして、適正な勤務ができたか。	②HP上に欠席・遅刻連絡システムを導入することができた。一方で、通常業務に加えて新たに感染症対策に取り組む状況もあるため、一層の業務精選を行う必要がある。	B	・勤務管理システムの導入により、働き方改革の意識は高まっている。しかし、他校の実践例の紹介や研修会を通して、より一層意識改革を図る必要がある。
4	・キャリア教育の共通理解を図るため、すべての教員に対して進路指導研修会を実施した。保護者向けの勉強会及び講習会も開催することができた。 ・卒業後の自立と社会参加を目標に、校内体制の整備を進め、引き続き、企業及び福祉事業所の新規開拓を進める。また、進路連絡協議会を開催するなど、外部機関と連携して指導ができる取り組みを進める。	①発達段階に応じたキャリア教育を進め、保護者支援を通して、児童生徒の自立と社会参加できる力を育成する。	①【管理職、進路指導部等】 「進路の手引き」を活用し、各市関係課、ハローワーク、商工会等の外部関係機関と連携し関係強化を行い、自立と社会参加を目指す人材の育成を実践し、就労企業や実習現場の数を増やす。	①「進路の手引き」を活用し、本校の進路指導の進め方は理解されたか。生徒保護者の希望する進路実現はできたか。	①コロナ禍であるが、学部と外部関係機関との連携により、高等部生徒の現場実習を延べ約120名（12月末現在）実施した。また、高等部3学年の進路先決定者は90％である。（1月末現在） ・外部講師による生徒対象研修会は3回、教員対象研修会は1回実施できた。（1月末現在）	A	・外部関係機関を活用して、保護者の進路希望のニーズに寄り添う。また、進路目標が多様化する生徒に対応して、進路実現を目指すために校内組織で連携する。
		②望ましい職業観や勤労観を指導し、社会の一員としての就労機会を増やすため、生徒の実習機会を増やし、校内研修や外部関係機関と連携する。	②進路指導の在り方を長期スパンで分かりやすく説明する。高等部では、生徒の実習の機会を多く設定し、生徒の自立と社会参加できる力を育成する。	②保護者に進路指導の内容は理解され、情報提供は適宜できたか。	②「進路の手引き」を配布し、12年間を見通した進路指導に活用した。保護者アンケートからは、「進路の流れや高等部卒業後の進路について見通しが持てた」と評価を得ることができた。	A	・今後も、「進路の手引き」を活用し、進路指導の流れを学部毎に、進路指導の在り方を進める。

学校関係者評価

実施日令和3年2月3日

学校関係者からの意見・要望・評価等

・学習指導要領の改訂ポイントに示されているように、知的障害特別支援学校の各教科が重要になってくる。これらが、日課表の中でどのように実施されて、学習指導要領の目標や内容と関連付けながら指導していくのかが今後必要になる。
・小学部から高等部のきめ細かな教育実践、児童・生徒に寄り添う先生方の姿はすばらしい。
・コロナ禍で行事が中止となる中、高等部の発表会（エイサー、高等部作業班の買い物など）の工夫した授業づくりが良かった。
・今年度は支援籍学習に不参加だったが、以前参加した時は、相手校の理解が進んでいないと感じた。（相手次第なのかと思いました）
・保護者が学校へ行く機会がない一年間でした。残念でしたが、コロナ禍で仕方ない。
・例年の運動会や文化祭の準備に充てていた時間をどのように過ごしていたか、もう少し知りたかった。
・例年の中学校との交流会は、中学校の生徒にとって大変意義深い学校行事になっています。今後も引き続き実施をお願いしたい。
・ケース会議を必要に応じて、迅速に対応してくれて助かりました。会議はこれからますます重要となり、かつ複雑になっていく気がします。専門家と連携しながら、良い取り組みを進めてください。
・前年度、行方不明になった同じクラスの生徒のその後の連絡がなかった。また、どのようにいなくなったのか、防止策とか何も連絡がなかったのが残念でした。
・スクールバスの増便はよい。また、緊急メールは、保護者も助かった。
・宿題や課題を家に持ち帰り、授業内容は理解できた。
・休校中、HP に先生方が作成した課題や動画の「まなびのへや」は、家で学校を感じることができた。
・HP の「まなびのへや」の動画は先生の顔が見られて、ダンスを楽しく見ました。ただホームページをあまり見る方が少なく、定期的に配信してもまだまだ多くの方に見てもらえないのが現状です。
・HP での発信が多く、見る機会が増えた。欠席遅刻連絡が HP でできるのは、使いやすくて便利です。
・HP の「まなびのへや」の配信を増やして、子供たちが家でも学習できるようにしてほしい。
・HP のみの配信では見ない方が多く、気づかれないことがあり、事前に一斉メールで「ホームページに掲載しました」と連絡を促したことで、一斉メール→ ホームページを見てもらう流れに繋がったと思います。（この一手間は大きい。）
・一斉メール登録率が家庭・教職員とも上昇したのはとても良い。やはり情報は欲しいという表れです。
・給食の異物混入０件、衛生管理意識も高まりうれしいです。
・「教職員の働き方改革」では、前回できるところから改善するよう期待したいと意見をしたが、システムの導入により意識が高まってきていることは喜ばしいです。達成度が A になると良いですね。
・今年度、コロナ禍で健康面に不安がある年でした。感染症対策の取組や情報提供などがありよかった。
・先生方の働き方改革の意識は、高まっているようですが、コロナ対応で負担も増え、大変な一年間だったと思う。
・ストレスチェックなどの評価も項目に入れるとより具体的かと思う。
・コロナ感染拡大防止は、大変なことだと思います。今後とも、児童・生徒の安心安全を最優先に取り組んでほしい。
・進路先の受入先が増え選択の自由が増えるとよい。
・進路指導部の説明会の内容は理解できました。高等部 1 年生の現場実習が中止となり残念でした。
・1 月末時点で進路決定している高 3 生徒が 9 割とのことで、例年と同様で安心しました。
・埼玉南西部では、就労移行支援事業所が集まり、合同説明会を行っています。進路指導に積極的に活用してください。